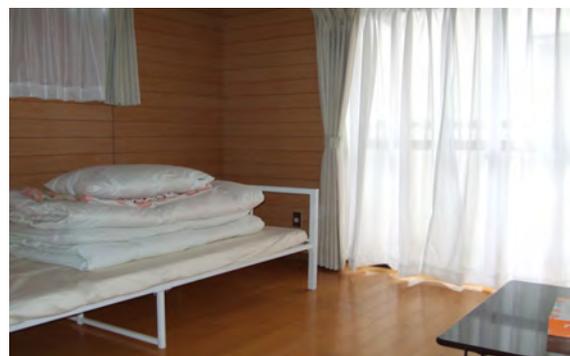


活動名 子どもシェルターの運営	団体名	特定非営利活動法人ピピオ子どもセンター
	地域	広島県広島市
	代表者	理事長 鶴野 一郎
	支援金額	30万円
活動概要		
<p>保護者等から虐待等を受けた子どもたちを受け入れるための子どものシェルターを運営し、居場所のない子どもたちに避難する場所を提供する。</p> <p>シェルターでは、子どもたちに安心して食事がとれて、ゆっくり眠ることができる場を提供し、必要に応じて関係機関等とも連携し、子どもたちが次に進む方向を自ら見つけられる力を取り戻せるように、支援と見守りを行う。</p> <p>①虐待その他の理由で行き場をなくした子どもたちを子どもシェルターで受け入れる。子どもが入居する際には、最低弁護士2名の立会いの下、入居の意思を確認する。</p> <p>②入居する子どもには担当弁護士をつけ、親権者などとの調整やシェルターを出た後の行き先の調整をおこなう。</p> <p>③シェルターにはスタッフが交代で常駐しており、入居している子どもたちが家庭的な雰囲気の中で安心して食事がとれてゆっくり眠ることができる環境を提供する。</p> <p>④入居する子どもの状況に応じて学力の向上、生活スキルアップ、音楽活動などの支援を行う。</p> <p>⑤正規スタッフやボランティアスタッフ、子ども担当弁護士のスキルアップを図るため、研修会を行う。</p> <p>⑥理事会、事務局会議、スタッフ会議、ケース会議をそれぞれ毎月開催する。</p> <p>⑦ニュースレターを年3回程度発行する。</p> <p>⑧子どもに対する虐待問題に関する情報発信をおこなうとともに、虐待防止のための広報活動をおこなう。</p> <p>⑨男子の自立援助ホームの設立準備をおこなう。</p>		
<p>◆実施時期 2013年4月1日～2014年3月31日</p>		
<p>◆参加人数 平成25年度内の入居者10名</p>		
		参加総人員：10名



ピピオの家



「子どもの日記念イベント2013」の劇



JaSPCAN(日本子ども虐待防止学会)信州大会参加

◆実施に伴う効果

- ・平成 23 年4月に「ピピオの家」を開所してから平成 26 年 3 月まで、延べ 30 名の子どもがピピオの家を利用しており、子どものシェルターのニーズの高さ、高齢児の居場所づくりの必要性を痛感している。
- ・平成 25 年度の入居者は 10 名で、それぞれシェルターでの安心できる環境の中で生活をおくることができた。また、シェルター退居後の家庭復帰のほか、高校卒業までの通学、作業所での仕事の体験、一人暮らしする子どもの生活スキルアップなどを支援できた。

◆苦労した点

- ・シェルターは、携帯電話は持てない、弁護士やスタッフが同伴でないと外に出られないといった約束事を設けている。これらは子どもの安全確保やシェルターの秘匿性のため必要なことであるが、子どもたちはシェルター内での時間を持て余すとともに、次第に閉塞感を感じストレスを貯めやすくなっている。このため、2013 年度は、スポーツ、映画鑑賞などレクリエーションの機会を設けるほか、子どもの意思で勉強、読書、手芸、ピアノ練習など自由課題に取り組む時間の設定、家庭教師・ピアノ教師による学習活動等の支援などを行っているが、このような日々の生活のベースをつくることの必要性が高い。
- ・家庭環境が改善できて家庭に帰れる子どもは少なく、家庭に帰ることができない子どもたちについては就労先を探すなどしている。しかし、その数は限られており、また、仕事への定着がむずかしい子どもも少なくない状況にある。子どもたちの自立を支援していくための他機関との連携やノウハウの蓄積が必要である。

◆今後の課題・発展の方向性

- ・ピピオの家に入居した子どもたちの自立を支援するため、平成 26 年度も「スタートラインプロジェクト」を実施する(貴財団との連携)。
- ①被虐待児等の成長を支援するプログラム(被害回復、生活習慣の改善、自己肯定感の涵養、資格取得)
- ②スタッフの能力開発を支援するプログラム(講座・セミナー・研究会等の開催、ケース会議の充実、他機関の視察・他機関のスタッフとの交流)
- ③その他(広報活動の充実)
- ・平成 26 年度も、ボランティアスタッフの募集・養成講座を開催し、ボランティアやシェルター、自立援助ホームなどに関心のある一般の方に参加を呼びかけていく予定である。
- ・引き続き、男子用の自立援助ホームの設立を目指す。

◆活動を終えての感想・意見等

子どもシェルターのニーズの高さ、自立支援のための取組みをより充実させていくことの重要性を痛感している。